

(第3種郵便物認可)

「トヨタ」の風

大橋鉄工秋田との連携

今月中旬、金属表面処理加工の太平化成工業（秋田市土崎港）の工場に愛知県北名古屋市から大橋鉄工の関係者が訪れ、生産現場や品質管理体制を細かく監査した。

製品管理

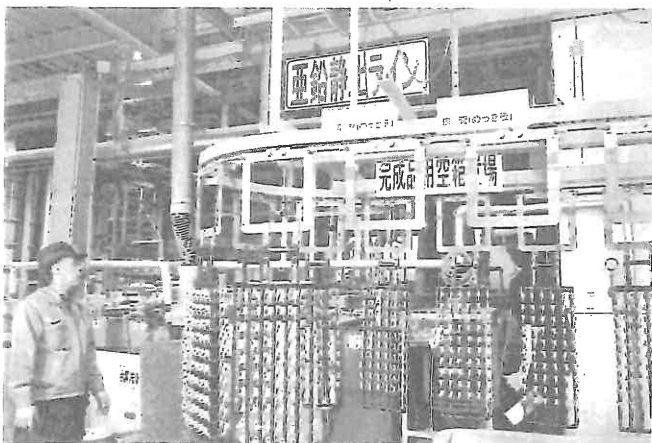
「不良品を出さないための治具の改良や徹底した製品管理について指導を受けた。改善しては社内でも共有することの繰り返し」。そう語るのは太平化成工業の加賀孝義社長(62)。「長年変えることなかった現場を突然変えるのは本当に大変だが、11月までに全てをクリアする」と前向きだ。

▷ 3 ◁

年ほど前。これまでも自動車部品のメッキは手掛けてきたものの、トヨタグループへの納入実績がなかった同社は「このチャンスを必ずものにしよう」と決意した。無駄を省き、生産効率の向上を図る「トヨタ生産方式」を徹底的に改善活動に取り組んできた同社品質技術部の中川祐介さん(36)は「初めは何もなかった。現場が変わることに戸惑う従業員もいた」と振り返る。工場に新たに棚を設置

効率化へ「改善」共有

初めて納入する。まだ試験的な供給ではあるが、来年4月工業の現場改善や意識改革を進めたのは、トヨタ自動車Oスター付きの台車を導入したBで県生産改善アドバイザーとして、少しずつ現場の効率の安齋義則さん(75)。安齋さんは「工場内のものの流れを



改善により部品の置き場所やラインの名称などの表示が設置された太平化成工業の工場

い。そのためには工程管理能力が重要」とする。

太平化成工業は、亜鉛やニッケル、金、銀、銅など10種類のメッキを手掛け、大量生産に対応できること。加賀社長は「自動車の電動化が進む中、電子部品などの内装関係でもメッキ処理の需要は広がりそうだ。自動車の部品供給を確保、大橋鉄工秋田と一緒に力を高め、岩手や宮城の企業、ヨタ東日本への部品供給を競っていかねばならない」と意気込んでいる。

同社は11月、大橋鉄工秋田（横手市）、東京端一（大仙

太平化成工業がガイドパイプ製造の打診を受けたのは3

ここで何が行われているのか分

上林雅樹さん(65)も改善を指